

東アジア調査から見る高校英語の  
学ぶ側の実態と課題

長沼 君主

東京外国語大学

n.naganuma@tufs.ac.jp

# 本発表の目的と流れ

## 目的

ベネッセコーポレーションとの共同研究による『東アジア高校英語教育調査』2003年度、2004年度、2006年度調査結果をもとに、主に韓国の高校生との比較を通して、日本の高校生の学ぶ側の実態と課題を明らかにする。

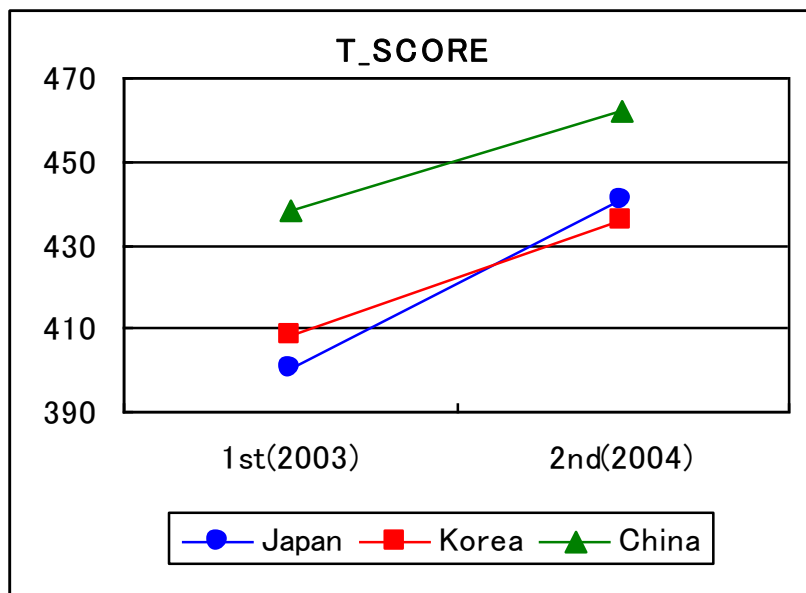
詳細は、[http://benesse.jp/berd/center/open/report/eastasia\\_gtec/hon/index.html](http://benesse.jp/berd/center/open/report/eastasia_gtec/hon/index.html) を参照

## 発表の流れ

1. GTEC for STUDENTSデータから見た日韓中能力比較
2. 英語使用経験率調査日韓比較および英語Can-Do調査日韓中比較
3. 英語情意変化および動機づけ、学習状況日韓中比較

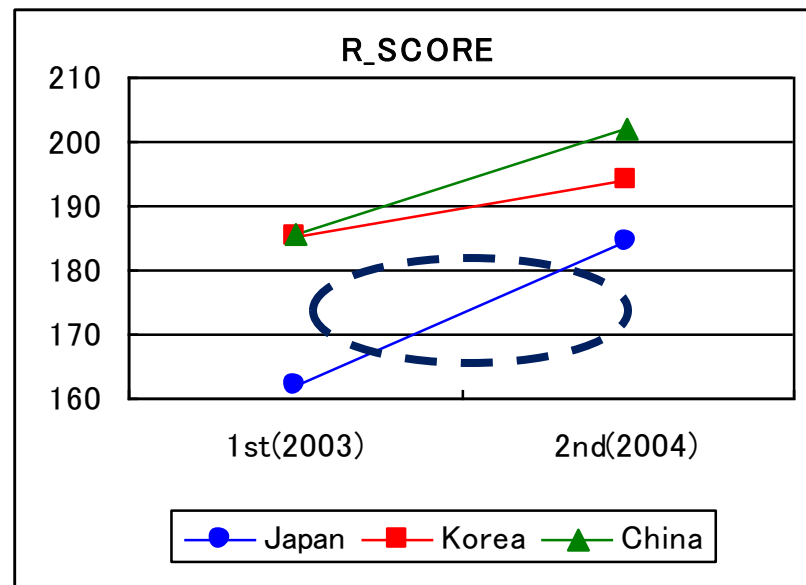
\* 情意変化および動機づけは日本調査データのみ

# 東アジア調査 GTEC for SUDENTS 経年変化(1<sup>st</sup> to 2<sup>nd</sup> year: 2003-2004)

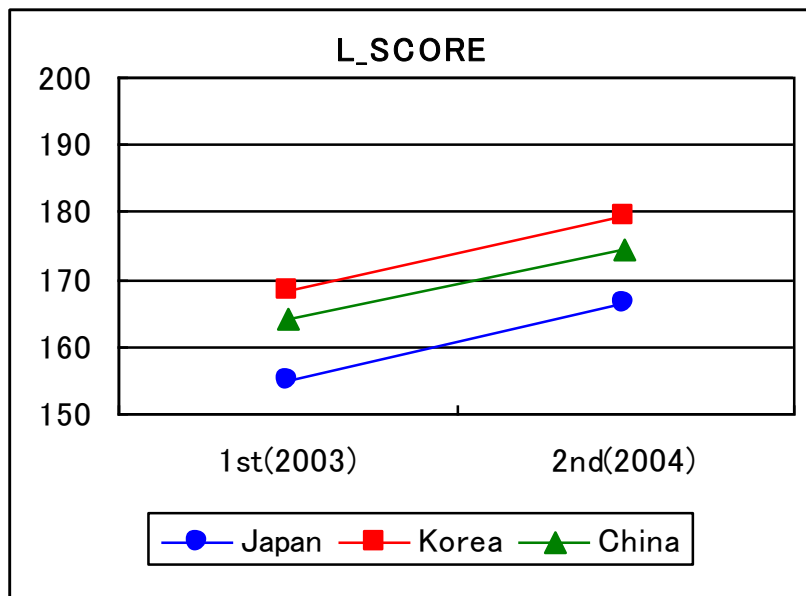


日本においてはとりわけリーディングスコアが1年次から2年次にかけて上昇し、韓国や中国と比べても大きな伸びを見せている

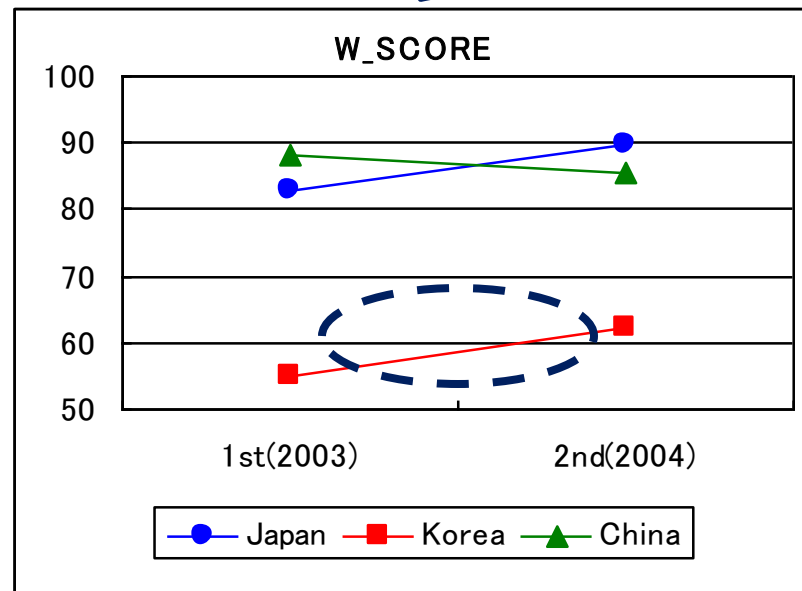
日韓中のいずれにおいても1年次から2年次にかけてスコアの伸びが見られ、平均スコアはGrade3から4のあたりで推移している



# 東アジア調査 GTEC for STUDENTS 経年変化(1<sup>st</sup> to 2<sup>nd</sup> year: 2003-2004)

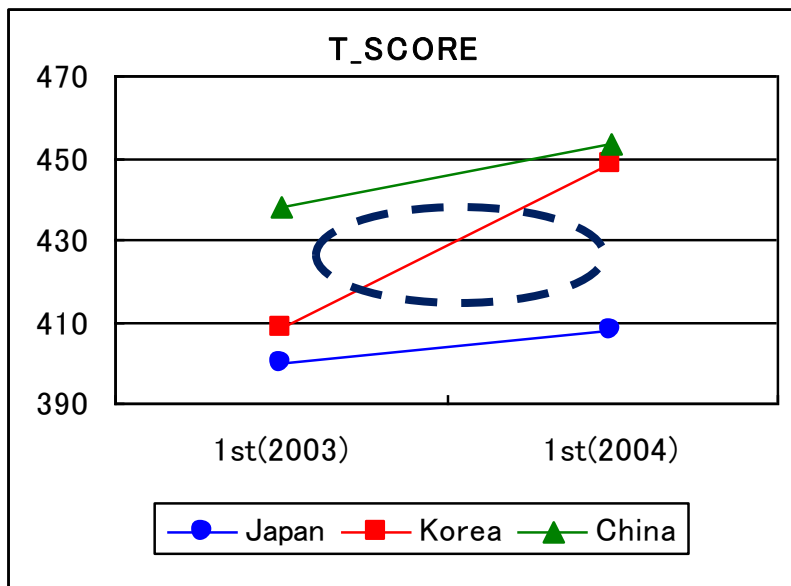


ライティングスコアは韓国において、平均スコアグレードが2と低い結果であるが、日中においても3であり、全体的にリスニングと同様に低い



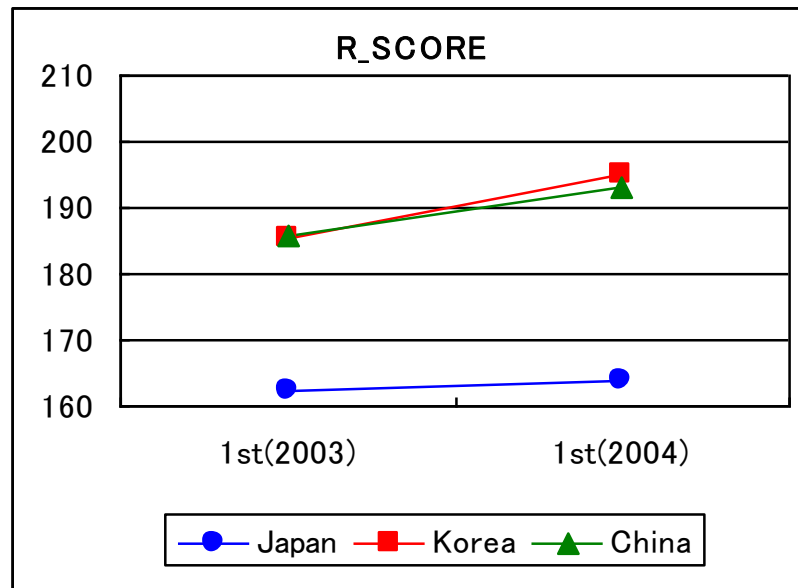
リスニングスコアは、日韓中の中でそれほど大きな差は見られず、リーディングの平均スコアグレードが4から5であったのに対し、2から3と低い

# 東アジア調査 GTEC for STUDENTS 年度比較(1<sup>st</sup> year Ss in 2003 and 2004)

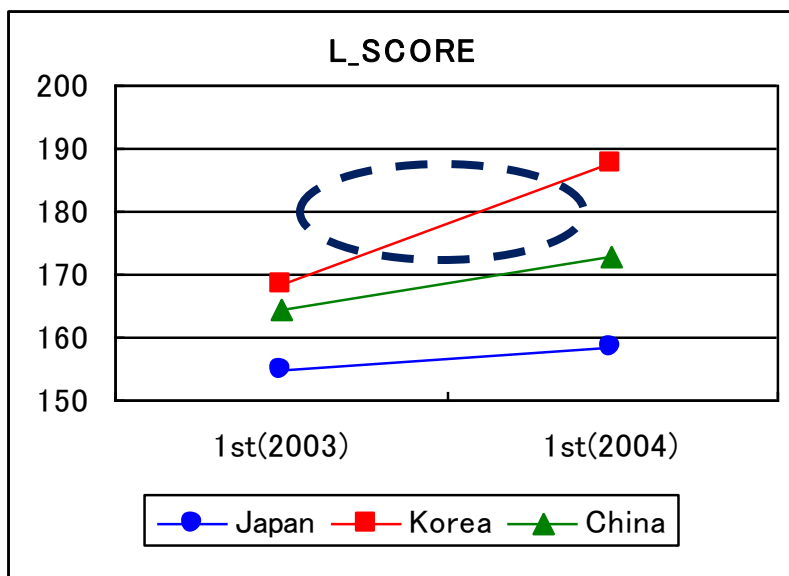


リーディングスコアにおいては、あまり大きな年度間の差は見られず、韓国でも同様であり、小学校英語導入の影響は特には見られない

日中では年度間に大きな差はないのに対して、韓国では小学校英語導入学年の2004年度入学者で大きなスコアの上昇がみられる

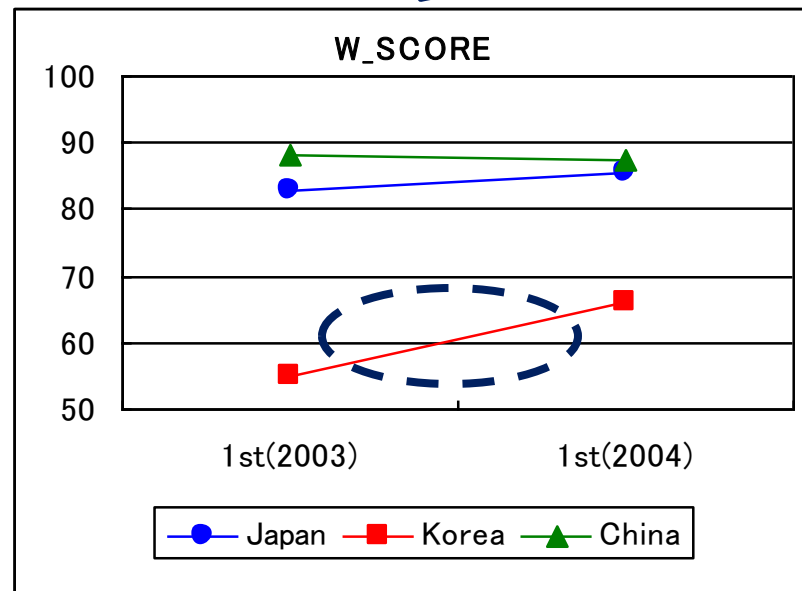


# 東アジア調査 GTEC for STUDENTS 年度比較(1<sup>st</sup> year Ss in 2003 and 2004)



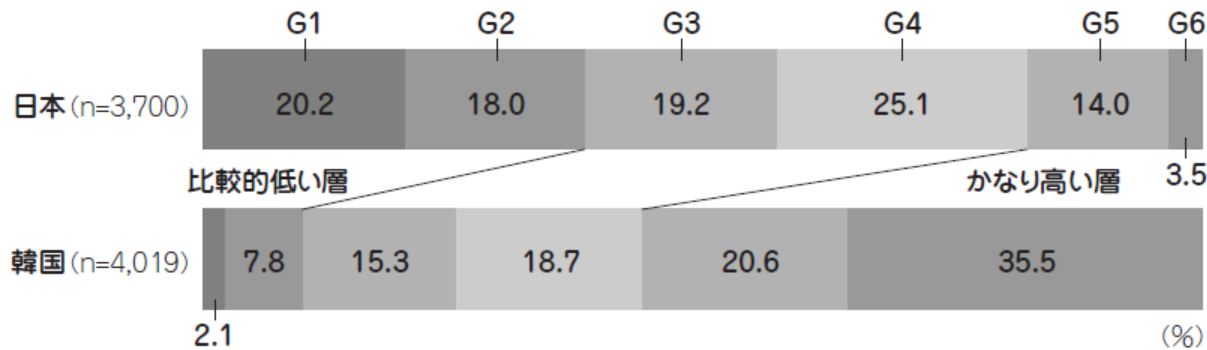
ライティングスコアは日中では年度間の差はほとんど観察されなかったのに対して、韓国では向上が見られるものの依然として低いままである

リスニングスコアは、韓国において2004年度入学者で大幅に上昇をし、平均スコアグレードも3から4になっており、小学校英語の影響がうかがえる



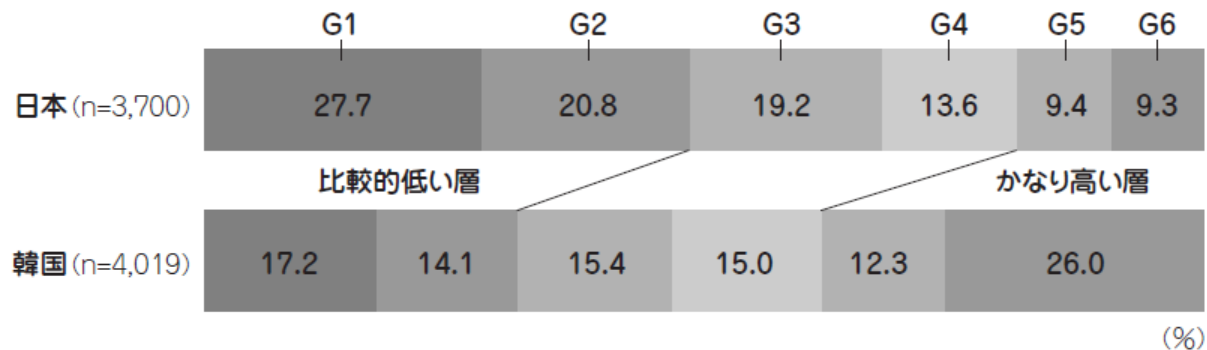
# 東アジア調査 GTEC for STUDENTS 得点分布(1<sup>st</sup> and 2<sup>nd</sup> year Ss in 2006)

## READING Japan: 153.2 / Korea : 205.5



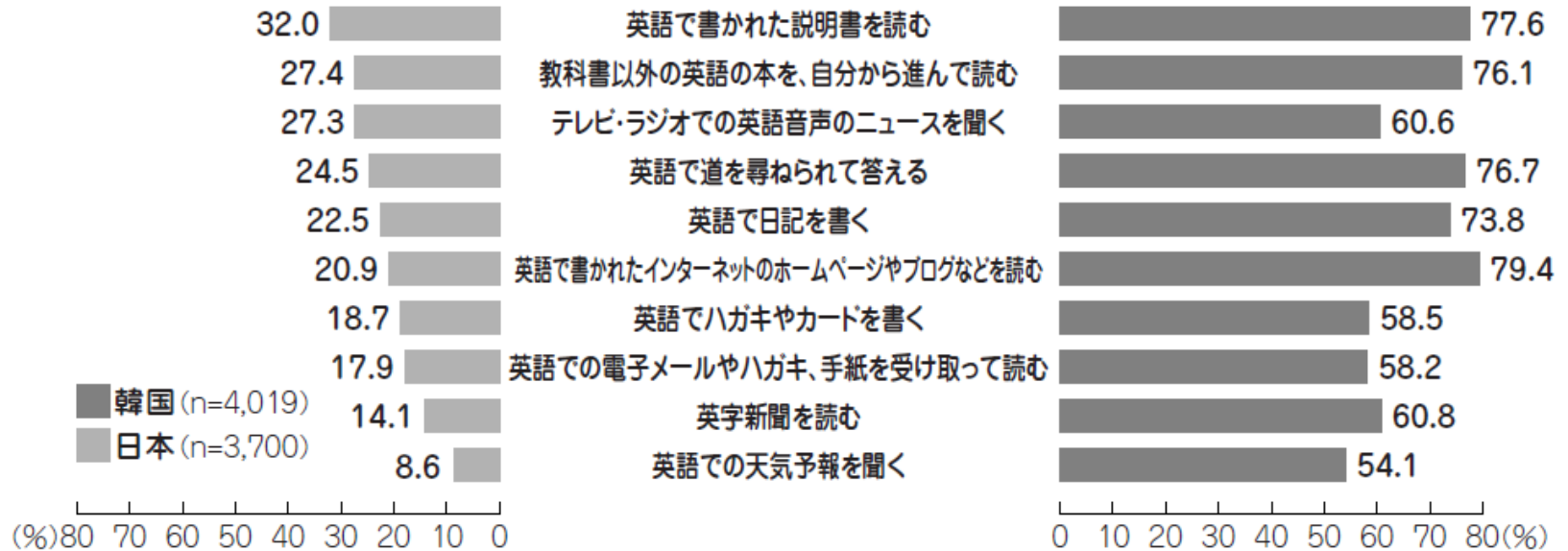
韓国では半数以上の層がグレード5以上に達しているのに対し、日本では3以下が半数を占める

## LISTENING Japan: 163.7 / Korea: 187.6



韓国では上位層と下位層が二極化しているが、日本と比較すると低い層の占める割合が少ない

# 東アジア調査2006年度一次調査 日韓国内英語使用経験比率



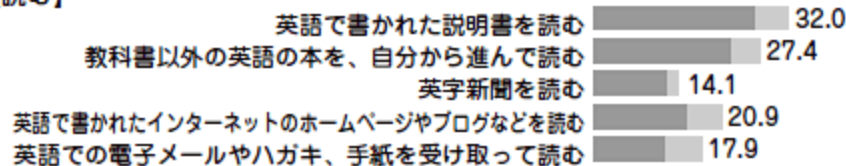
日本では教室外で英語に触れる機会があまりないなか、積極的には求めていない傾向にあるのに対し、韓国ではより身近に英語に触れる機会があり、また意欲的である



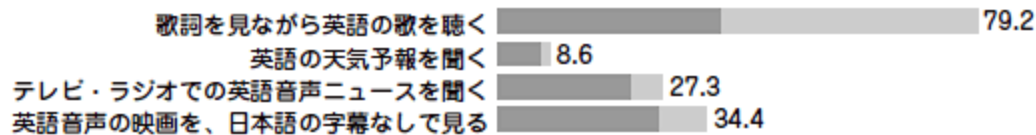
# 東アジア調査2006年度二次調査 日本国内英語使用経験比率

(n=3,700)

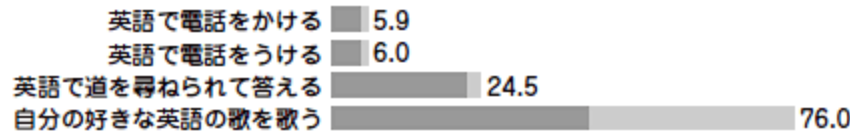
## 【読む】



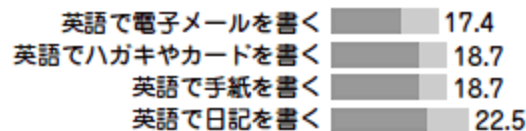
## 【聞く】



## 【話す】



## 【書く】

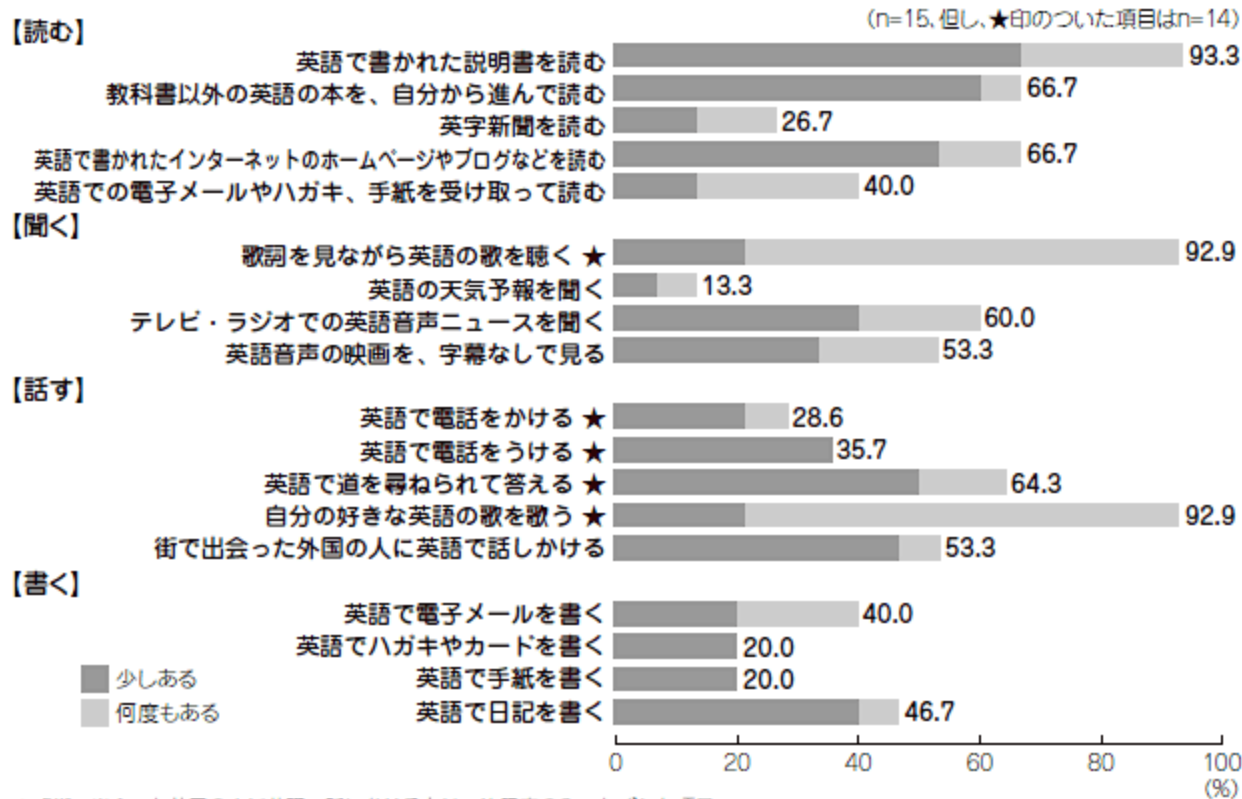


■ 少しある  
■ 何度もある

0 20 40 60 80 100 (%)

日本では英語で歌を聞いたり、歌う以外の経験は低く、いずれも30%台以下の経験率である

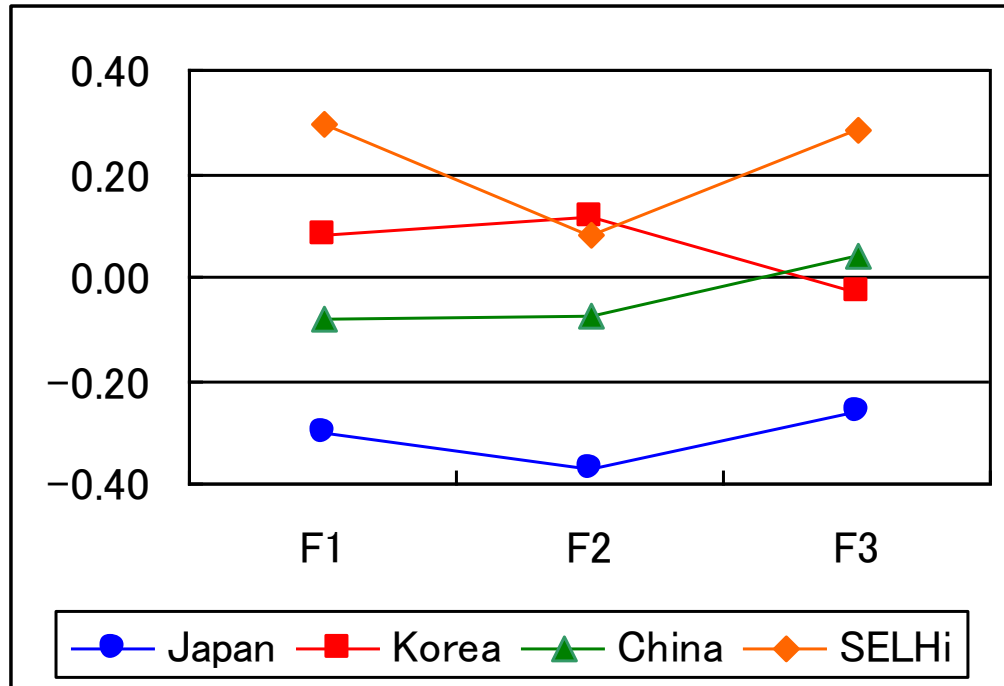
# 東アジア調査2006年度二次調査 韓国国内英語使用経験比率



二次調査のため  
サンプル数は少  
ないが、経験率  
は多いものの、  
頻度の高い項目  
は多くはない

\* 「街で出会った外国の人に英語で話しかける」は二次調査のみでたずねた項目。

# 東アジア調査2004年度調査 教室内Can-do因子得点



## F1: オーラル活動

英語でのロール・プレイやスキット・劇  
英語でのスピーチやプレゼンテーション  
英語でのディスカッションやディベート  
ペアやグループで行う英語を使った

## F2: テキスト活動

英語教科書の本文を読んで理解する  
英語教科書の本文を声に出して読む  
教科書の内容についての英語での説明  
英語教科書の本文を耳で聞いて理解する

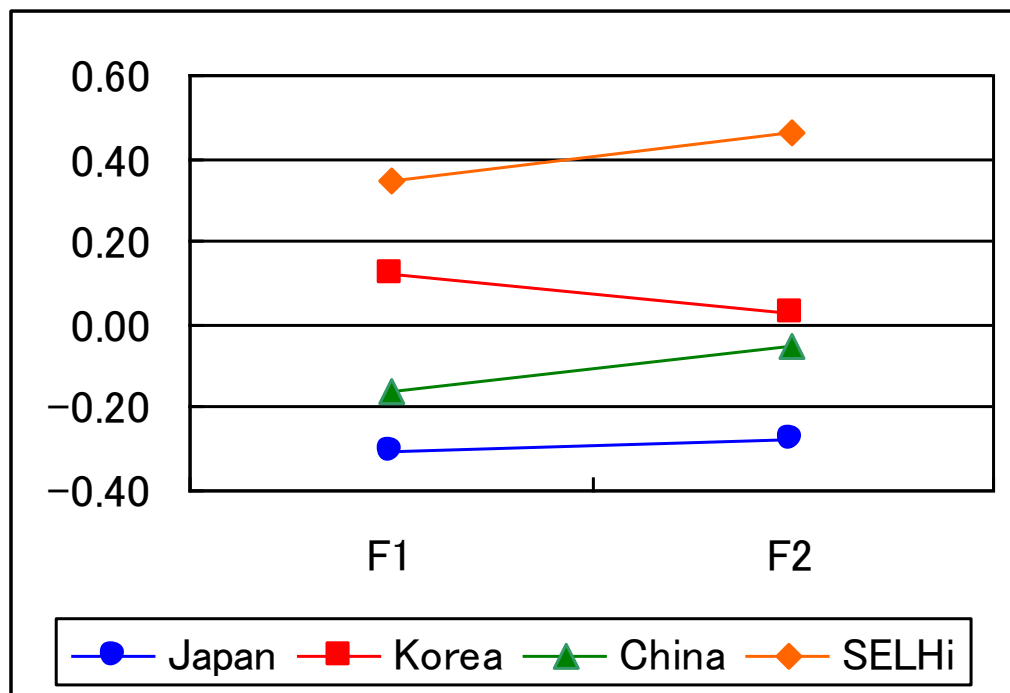
## F3: ライティング活動

英語でのエッセイや論述  
教科書の本文内容の概要を英語で書く

F1: オーラル活動 / F2: テキスト活動 / F3: ライティング活動

日本ではどの技能領域においても「できる」という自信が低い  
SELHi校では他国と比較しても高い自信をつけている

# 東アジア調査2004年度調査 教室外Can-do因子得点



## F1: リーディング・リスニング活動

教科書以外に読む英語の本や雑誌・新聞  
英語で書かれたホームページ  
英語で書かれたレシピや説明書  
テレビ・ラジオでのニュース・天気予報  
英語音声の映画・ビデオ・DVD  
自分の好きな洋楽アーティストの英語の歌

## F2: ライティング活動

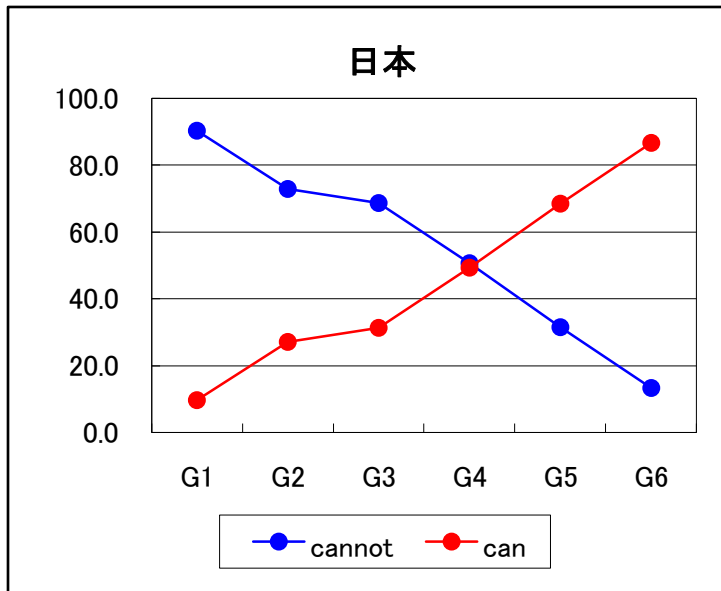
英語で書く日記  
英語で書く電子メールやカード・手紙

F1: リーディング・リスニング活動/ F2: ライティング活動

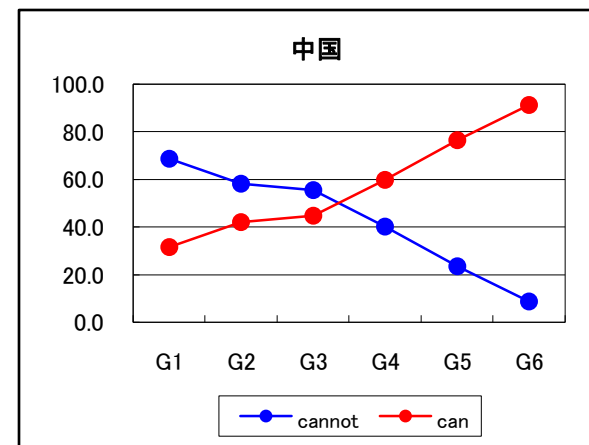
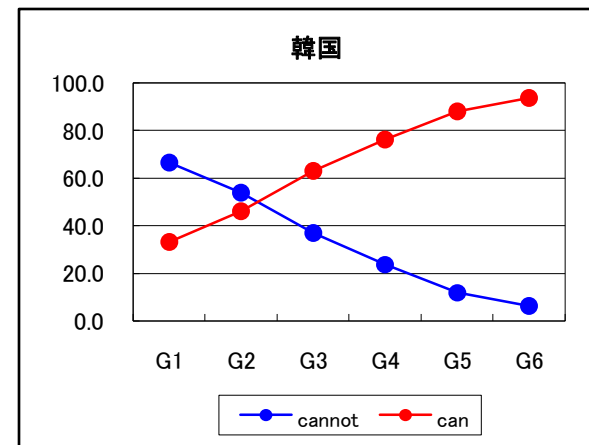
教室外の活動においても教室内の活動と同様に日本では自信が低いですが、SELHi校ではいずれも高い自信をつけている

# 東アジア調査2004年度調査 教室内Can-doグレード別比率

## 英語教科書の本文を声に出して読む

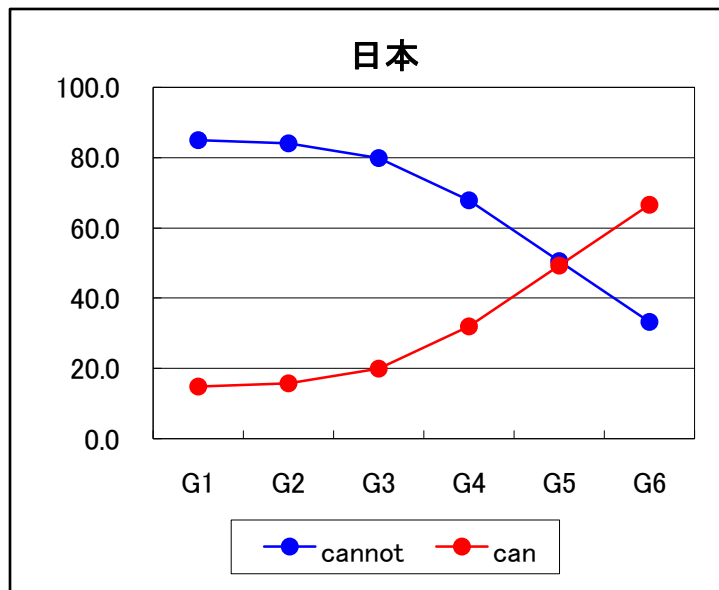


日本ではGrade4が境であるのに対して、  
韓国ではより早くから自信をつけている

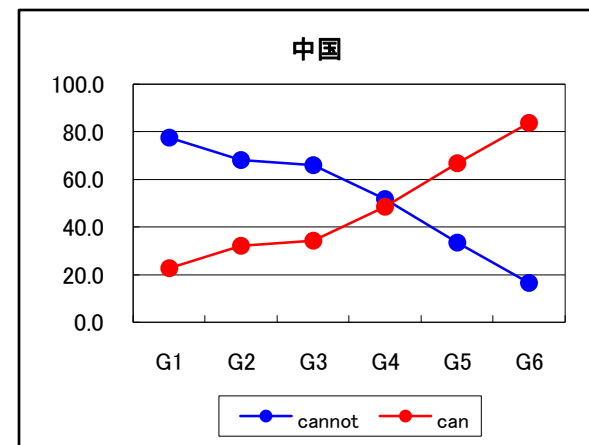
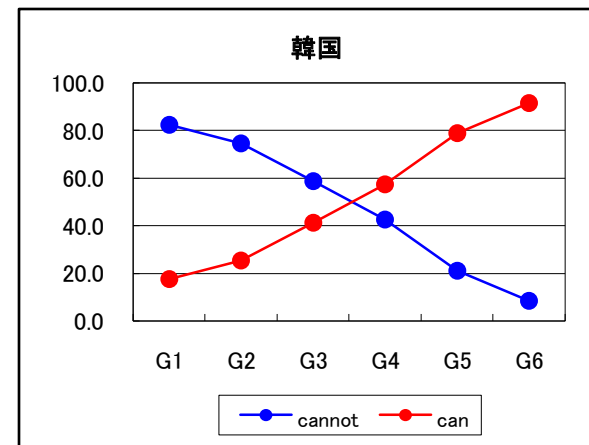


# 東アジア調査2004年度調査 教室内Can-doグレード別比率

## 英語教科書の本文を読んで理解する

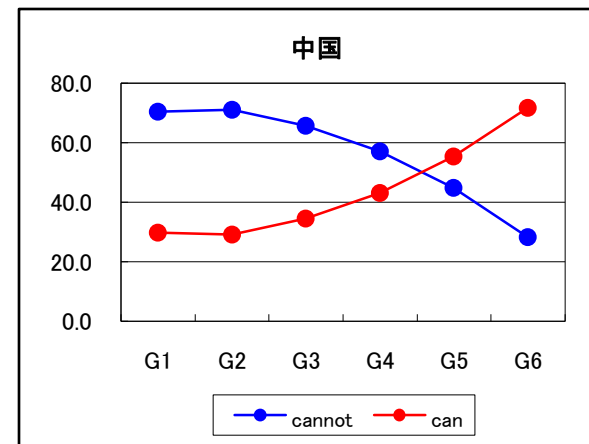
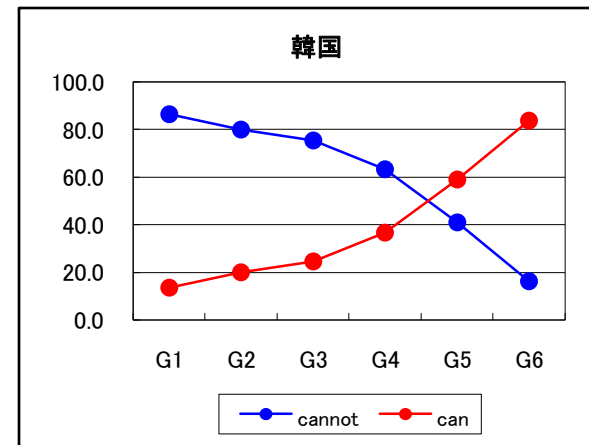
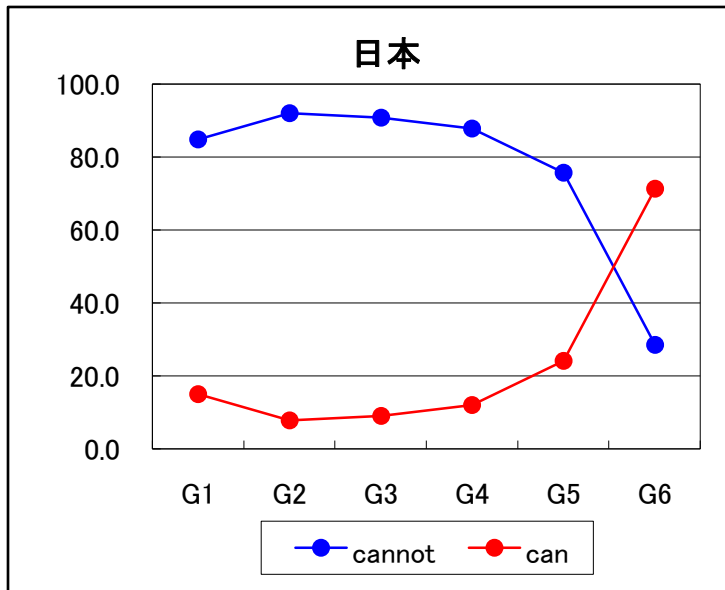


日韓ともに音読よりも自信が低いですが、同じ  
グレードで比較しても韓国で自信が高い



# 東アジア調査2004年度調査 教室内Can-doグレード別比率

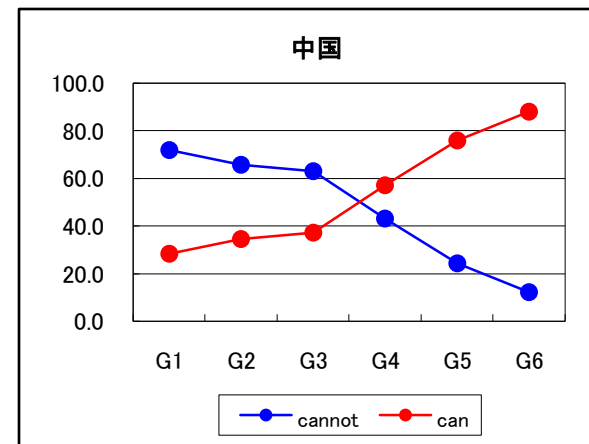
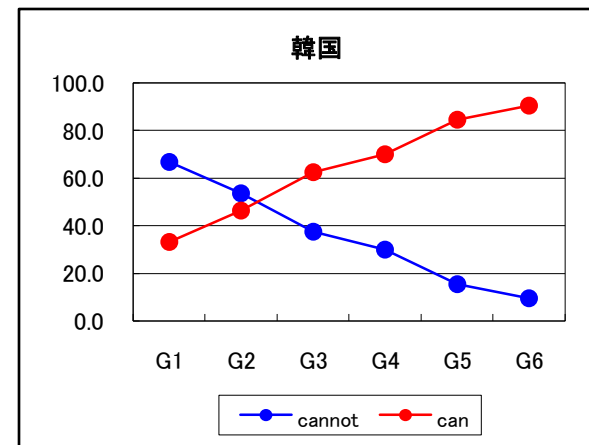
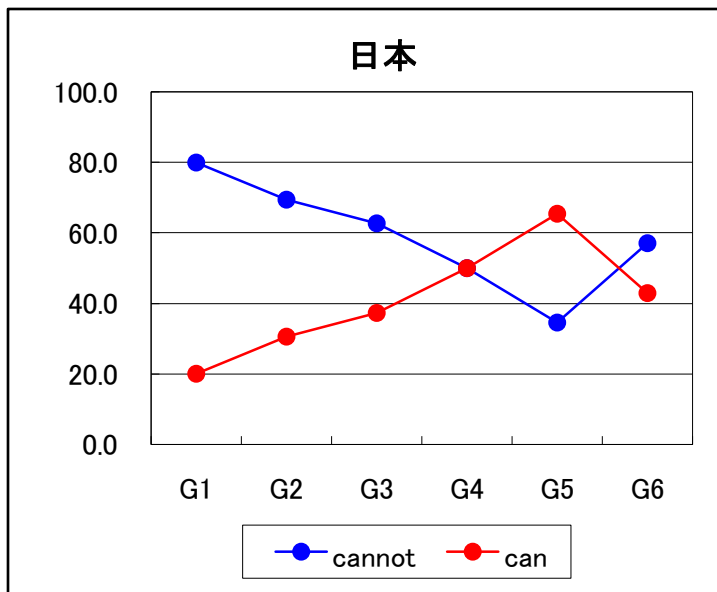
## 英語教科書の本文を耳で聞いて理解する



読みでの理解に対し、耳での理解への自信は日韓ともに低めの傾向を示している

# 東アジア調査2004年度調査 教室内Can-doグレード別比率

## 教科書の内容についての英語での説明

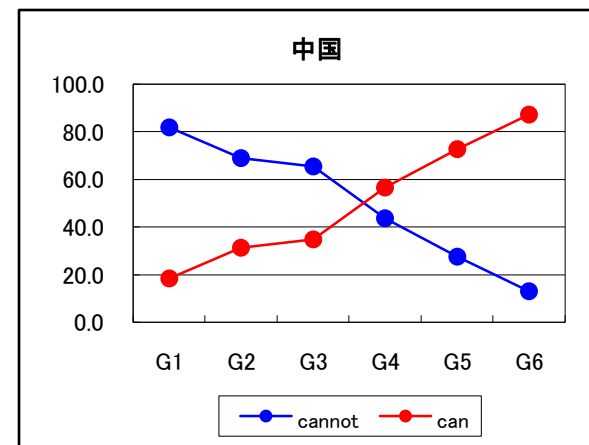
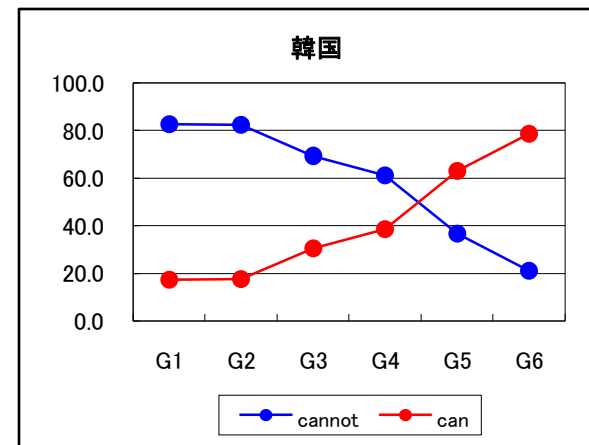
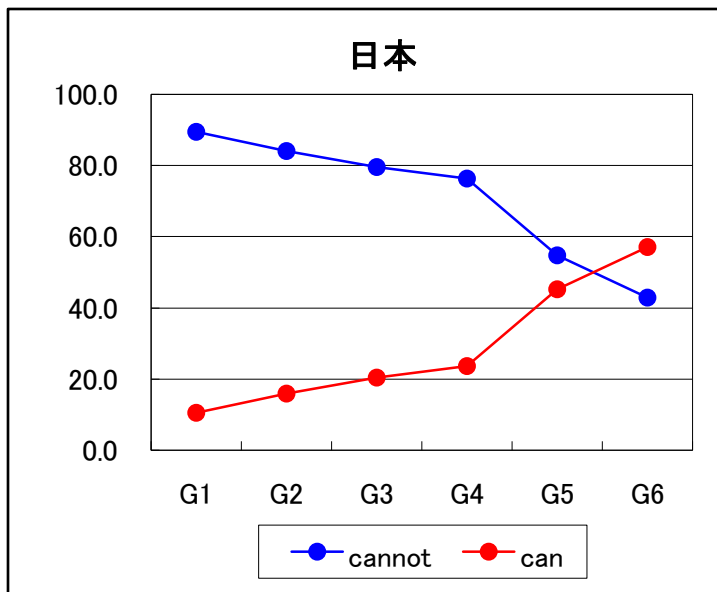


教室での教員の話す英語への理解でも  
韓国では低い段階から自信をつけている



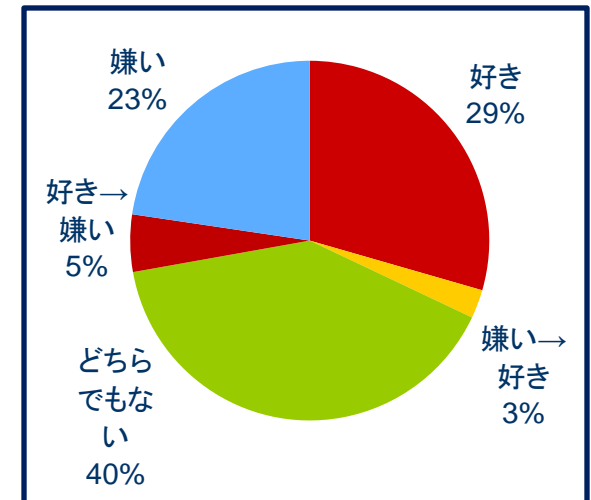
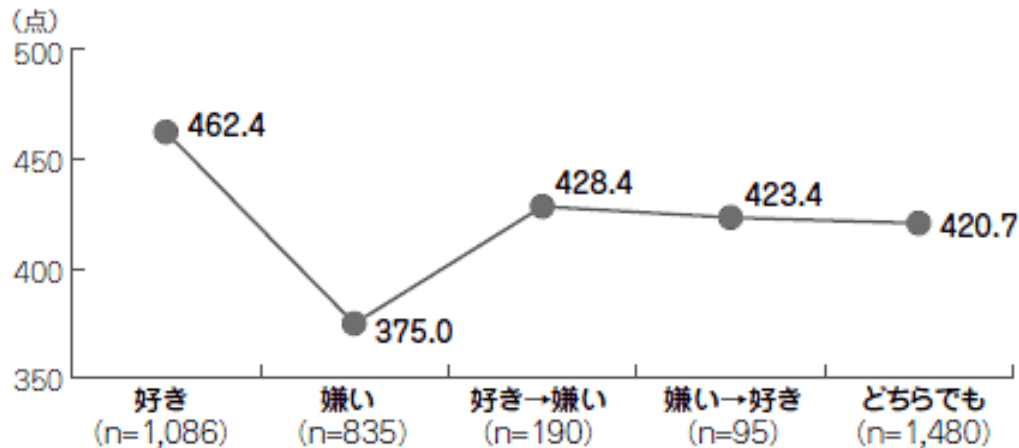
# 東アジア調査2004年度調査 教室内Can-doグレード別比率

## 教科書の本文内容の概要を英語で書く



概要を書く活動においては日韓ともに自信は低く、Grade5以上が境となる

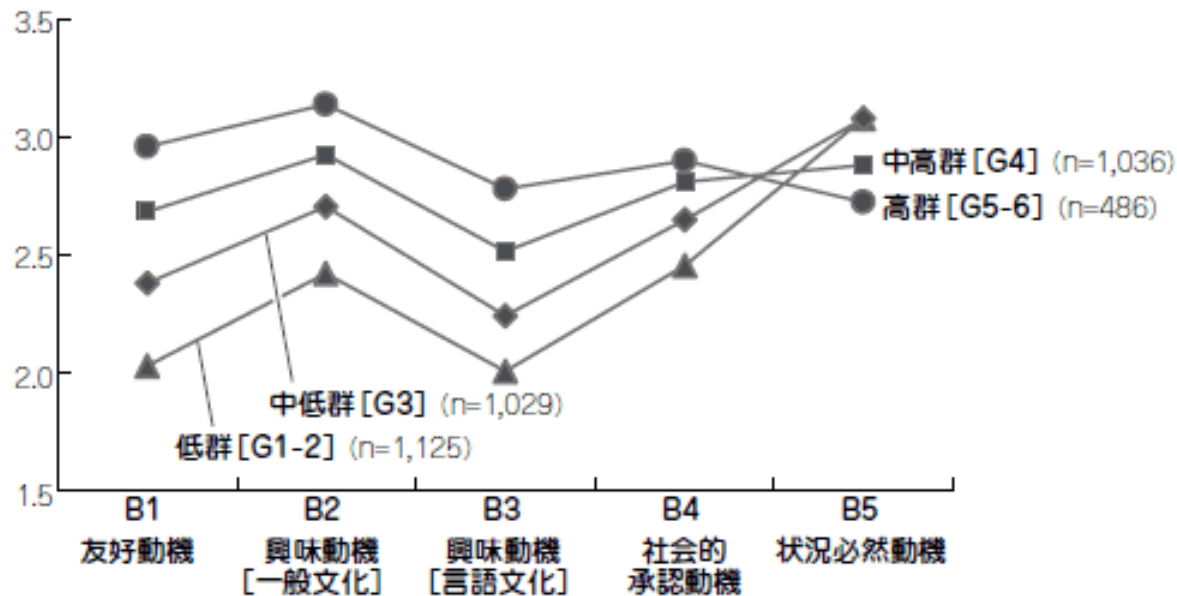
# 東アジア調査2006年度二次調査 情意変化×GTECスコア(日本調査)



\* 「現在の英語の好き嫌い」の回答のうち、「好き→嫌い」は「最初は好きだったが、途中から嫌いになった」、「嫌い→好き」は「最初は嫌いだったが、途中から好きになった」、「どちらでもない」は「好きでも嫌いでもない」を示している。

英語が最初から好きだった層と嫌いだった層ではスコアに大きな開きがあり、途中から好きまたは嫌いとなった層とでは、あまり差が見られない。また情意変化する層は全体の10%以下である。

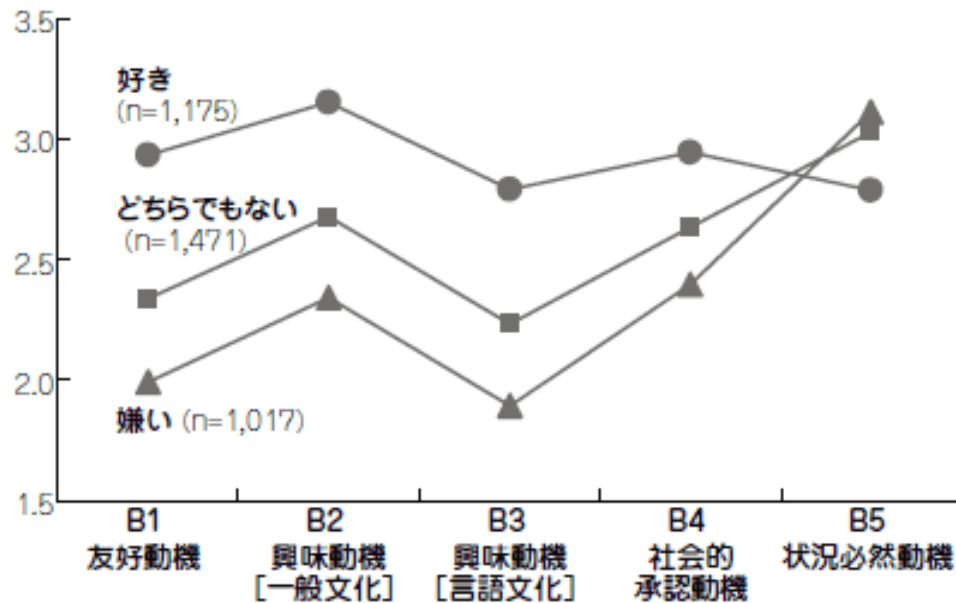
# 東アジア調査2006年度二次調査 動機づけ×GTECグレード(日本調査)



動機づけの面からは高スコア層で友好動機や言語文化への興味動機が高くなる傾向にある

\* 「あなたの英語学習について」たずねた項目(資料編p.121、項目番号1~11)をB1(友好動機)、B2(興味動機 [一般文化])、B3(興味動機 [言語文化])、B4(社会的承認動機)、B5(状況必然動機)に分類し、その分類ごとに「全く当てはまらない(1)」~「とても当てはまる(4)」までの4段階で回答してもらったものの平均値を算出した(以下、図2-13まで同様)。

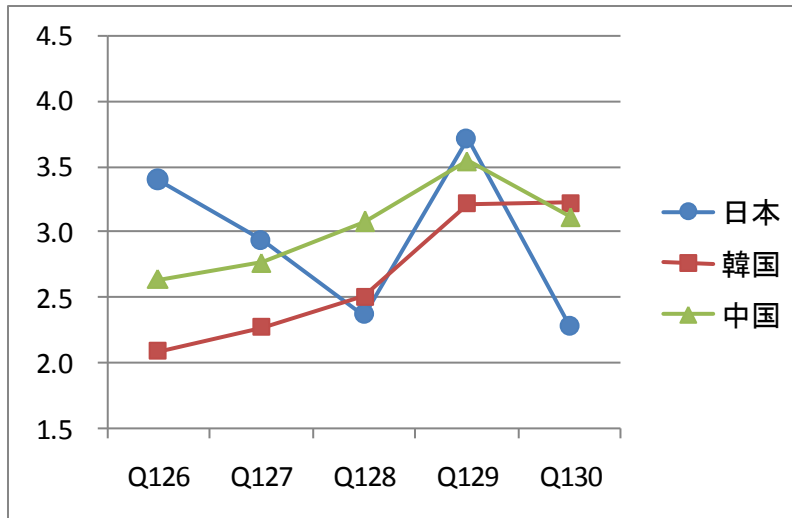
# 東アジア調査2006年度二次調査 動機づけ×情意層(日本調査)



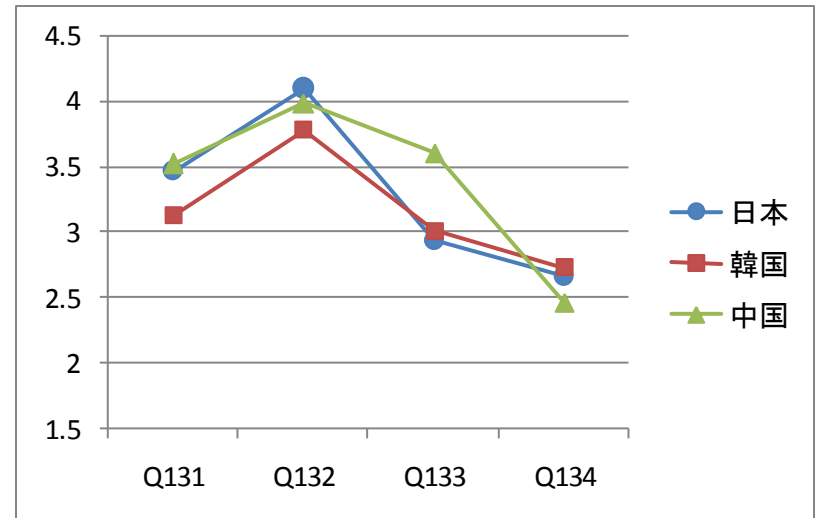
動機づけから情意を解釈すると、どちらでもない層は嫌いと答えた層に近い傾向を示している

\* 「現在の英語学習は好きですか」の質問で、「好き」と「最初は嫌いだったが、途中から好きになった」を「好き」、「嫌い」と「最初は好きだったが、途中から嫌いになった」を「嫌い」、「好きでも嫌いでもない」を「どちらでもない」とした。

# 東アジア調査2004年度調査 日韓中学習状況比較



- Q126 授業には予習して参加する
- Q127 予習時に学習の要点や疑問点を考える
- Q128 授業の後は復習し不明点を確認する
- Q129 宿題があれば必ずする
- Q130 問題集などに自主的に取り組む



- Q131 授業を聞き、理解できない点や疑問点を解決する
- Q132 授業を聞き、大切なことをノートなどに書き込む
- Q133 授業を聞くよりも、板書を写すのに集中している
- Q134 授業は聞くが、なかなか集中できない

日本は予習型なのに対して、韓国や中国では問題集型である。中国では復習も比較的重視している。授業中の取り組みは、中国では板書に集中している。

# 東アジア調査から見えてきた実態と課題

リーディングは1年から2年にかけて伸びるものの、リスニングは低く、小学校英語が導入された韓国の新課程生との間で差が開いている。新指導要領での技能間のバランスをどう考えるか。

**新指導要領**

## 自信と経験

韓国と比較して日本の生徒が同じスコア層でも教科書を用いた活動に対する能力への自信が低く、また、教室外で英語を使うことに積極的でなく、使用経験に乏しい現実をどうしていくか。

英語に対する情意と能力は関連しており、高校になってから情意変化をする層が少ないこと、また、どちらとも言えないと答えた層が動機づけからは嫌いと言った層に近いことをどうとらえるか。

**情意と能力**